



MARUTANE
Quality Seeds

一代交配 リーキ (LEEK)



KRYPTON クリプトン

特性

葉鞘部は太さ、長さともに非常にボリュームがあり、特に冷涼地・中間地での栽培に向きます。収穫適期を過ぎても葉が垂れにくく作業性が良いです。



MEGATON メガトン

特性

早生品種で夏～年内出荷に向く。葉鞘部は太さ、長さともに非常にボリュームがある。特に冷涼地・中間地向きの品種。



LONGTON ロングトン

特性

中早生品種で年内～年明け、春先出荷が可能。耐暑性、耐寒性に優れる。じっくり太り、長さも出るタイプ。特に中間地、暖地向きの品種。

品種特性比較表 (比較は弊社農場での試験結果)

nunhems[®] この品種は Nunhems Netherlands B.V. の育成品種です。

品 種	草勢	草姿	葉色	太り	長さ	特 長
クリプトン	強い	半立性	濃緑	極太	中	早生性が高く冷涼地等での早めの収穫に最適。収穫適期以降でも葉が垂れにくく、作業性が高く在圃性もある。
メガトン	やや強い	半立性	濃緑	太	やや長	早生性が高く冷涼地等での早めの収穫に最適。軸の太さと長さのバランスが美しい。在圃性は中位。
ロングトン	中	立性	緑	中	長	中早生なので、太りはやや遅く在圃性に優れる。葉は細く耐寒性が強い。栽培し易い品種。

国産リーキのニーズについて

国産リーキの品質向上に伴い、西洋料理のシェフからの評判も高まってきており、産地での生産は拡大傾向にあります。さらに直売所の新規品目として、また加工用原料としてのニーズも高まってきています。



北海道での栽培風景

リーキの料理

白根を食用とし、長時間加熱すると独特の甘味や旨味、コクが出る。ポトフ等の煮込み、スープやソースのダシなど主に西洋料理に利用される。ジャガイモとリーキを炒めてブイヨンで煮込み、裏ごしして生クリームを加えた冷製クリームスープ『ビシソワーズ』は有名なメニューの一つ。



ポトフ



リーキの栽培について

リーキについて

原産地：地中海沿岸が原産のヒガンバナ科ネギ属の西洋野菜。現在はヨーロッパや北米、オーストラリアなどで多く栽培されている。ジャンボにんにくや無臭にんにくと同じ仲間。

温度：冷涼な気候と乾燥を好み、耐寒性もある。逆に高温多湿に弱い。

土壌：根の酸素要求量が大きいため、地下水位が低く水はけの良い、耕土の深い土地が最適。好適 pH は 7.0 前後。

抽苔：タマネギと同様。ある程度成長した苗が低温にあうと花芽を分化し、その後の高温長日条件で抽苔する。

栽培のポイント

圃場の選定：日当たり良く、肥沃で耕土が深く、水はけの良い圃場を選ぶ。

良苗の確保：太さの均一な苗の育成に努め、定植する。

活着の促進：加湿は禁物で、適度な土壤水分を保ち、発根を促進する。

土寄せ：倒伏防止の軽めの土寄せは生育を促進する。高温多湿下での強い土寄せは根痛みを起し、病害の発生を助長する。また軟白長を確保する土寄せは、葉の間から葉鞘部に土が混入し、商品価値を落とすので注意する。

肥培管理：高温多湿時の無理な追肥は軟腐を招くので注意。温暖地では気温下降期からの追肥が、葉莖部肥大に効果的。

病害虫防除：育苗中のネギコガ、定植直後のネキリムシ、高温多湿時の軟腐病や黒斑病、気温下降期のヨトウムシなどに注意し、防除に努める。

育苗

播種量：株間 10 cm とし、畝幅より播種量を算出する。
(畝幅 90 cm の場合、株数は 10,000 株程度)

発芽適温：発芽適温は 15 度程度。25 度以上になると発芽率が低下する。適湿を保ち、極度な灌水や多湿を避ける。

育苗適温：13 度～20 度程度で管理する。

覆土：5 mm 程度とする。

育苗期間：1 か月半～2 か月とし、葉数 3 枚以上、葉鞘径 3 mm 以上を目指す。途中で垂れ葉を刈り込んでも良い。

追肥：葉色を見ながら適宜液肥を散布する。

育苗方法：チェーンポット (CP303-10)、セルトレイ 128 穴育苗が可能。

施肥設計

- 施肥設計は地域の土質や残肥によって異なるので、現地の指導に従う。(春まき標準)

(施肥例)	肥料名	肥料量 (kg)	成分 (kg/10a)		
			N	P	K
土づくり	完熟堆肥	3,000			
	苦土石灰	150			
元肥			5	26	5
追肥 1 回目			5	5	5
追肥 2 回目			10	10	10
追肥 3 回目			13		13

病害虫防除

- ネギに準じて行う。
- 現地の営農指導員の指示に従う。

定植

- 事前に pH の矯正と土作り、基肥施肥を実施しておく。
- 水はけの良い圃場では植え溝をつくり、水はけの悪い圃場では高畝とする。
- 極端に深い植え溝は、酸欠、多湿による根痛みを起すので注意する。

定植後の管理

- 定植後 1～2 か月後に追肥をかねて土寄せを行い倒伏を防止する。
- 梅雨時の軟腐には特に注意し、追肥や土寄せを控えたり、降雨後の排水に留意する。
- 気温下降期の肥大期には肥料切れに留意する。
- 軟白長を確保するための土寄せが必要な場合は、気温下降期に重視して実施する。またその時は葉鞘部への土の混入に留意する。

収穫

- 現地の収穫基準、出荷規格に準じて収穫を行う。

